

第 1 回栗東市観光振興会議 会議録

- 日時： 令和 4 年 11 月 4 日（金） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
- 場所： 栗東市危機管理センター2 階 防災研修室
- 出席： 《委員》
築地達郎会長、田中由美副会長、岡山光雄委員、林優里委員、上野邦緒委員、
西田秀孝委員、奥村智委員、鶴田泰伸委員、高野秀樹委員
《運営組織》
一般社団法人栗東市観光協会 山口事務局長
《事務局》
産業経済部内藤部長、商工観光労政課青木課長、商工観光労政課事務局担当

1. 開会

（商工観光労政課長）

2. 市民憲章の唱和

→省略

3. あいさつ

築地会長 あいさつ

内藤産業経済部長 あいさつ

事務局より、本日の傍聴者は 0 名と報告された。

4. 案件

(1) 令和 4 年度スケジュールについて【資料 1】

○事務局説明（省略）

（おもな意見交換）

→特になし

(2) 今年度取り組み方針に対する実施状況について【資料 2】

○事務局説明（省略）

（休会）

現状報告

○一般社団法人栗東市観光協会より「栗東市の観光の現状についての報告」

4 つの事業の取り組みを実施

- ① 観光誘客事業
- ② 環境整備事業
- ③ 情報発信事業
- ④ 持続可能な観光物産事業

○【資料 2】について一般社団法人栗東市観光協会より詳細説明

基本戦略 1 基本事業(1)

「周遊型観光の環境整備やモデルコースの設定」

- ・ウェルネスツアーの事業化
 - ……令和 3 年度、観光庁の補助採択を受け、モニター事業を実施。令和 4 年度、苔テラリウム、TCC ホースセラピー、ヨガ体験を実施しマスメディアにとりあげられた。

「既存の祭りやイベントの魅力向上」

- ・やまの健康事業を通じた金勝地域でのイベントの実施
 - ……令和 2 年度～令和 4 年度滋賀県のやまの健康プロジェクトの補助事業で、金勝地区の走井（はしり）がモデル地域となり、「明日の走井を考える会」と共同で、リーフレット作成した。
地元自治会と連携し田植え、稲刈り体験、左義長など定期的にイベントを山村地域に多くの来場者を迎えることで上げた収益を集落内の環境整備やイベントの運営費用に充てられている事業である。

基本戦略 1 基本事業(2)

「市民や来訪者による地域資源の発見と SNS 等による情報拡散の促進」

- ・イベントのごとに市の広報や SNS への掲載
 - ……フォロワーを増やす取り組みを担っており、現状では、インスタグラム 3,000 人、ツイッター・フェイスブックで 800 人、イベントに来られた方の口コミが誘客を促す手段で有効なので、本市の良さを一言でも多く伝えていただくよう情報拡散の協力をお願いしたい。

基本戦略 2 基本事業(2)

「交通アクセスの利便性向上」

- ・めぐりちゃんバスの運行
 - ……春、秋に手原駅を起点に金勝寺までの市内周遊バスを運行しており、旧和中散本舗、九品の滝などの観光名所を巡り、年間 800 名の方に乗車いただいている。コロナ禍以降問い合わせも増え、これまでは片道利用

だったのが、例えば「こんぜの里」～「泣き地藏」～「九品の滝」～「大野神社」で下車されるなど、モデルコース利用者が増加している。

「市民のおもてなし意識の醸成と教育分野との連携」

- ・栗東ウェルネスバスツアー（近江タクシーと近江トラベルが主体）
- ・・・観光庁のポストコロナを見据えた観光誘客の交通事業者向けの補助事業で、ホース倶楽部での乗馬体験、栗東ワイナリー、苔のワークショップの日帰りのバスツアーを実施され、企画、広報部分で協力している。

基本戦略 2 基本事業(4)

「観光関連消費の喚起」

- ・旧和中散本舗の春秋の特別公開
- ・・・1日500名の時もあったが、今年初めて1,000名を超えた。市では文化財活用地域計画を策定されたところである。来月は同所で「百人一首の舞」をされる舞踏家とコラボで公開予定であり、県の広報誌「シガリズムトリップ」にも掲載予定。

会 長： ではこれで現状報告は一旦終了とする。議事に戻り、「案件2」の報告について議論する。先程休会中に委員より、山の施設の休館と予算のことについて質問があったが、事務局いかがか。

事務局： 指摘のあった山の施設であるが、経過を含めて伝えと、金勝の森林地域には、「森林体験交流センター」、「バンガロー村」、「道の駅こんぜの里りっとう」の3施設がある。これまで南部森林組合が指定管理を取られていたが、観光協会が今春、「森林体験交流センター」の指定管理を取られ、「バンガロー村」、「道の駅こんぜの里りっとう」2施設は変わらず南部森林組合が指定管理を取られた。

また教育委員会所管の「平谷球場」、「森の未来館（元日赤山荘保養施設）」があり、「山の子事業」として「森の未来館」でしてされており、今春フォレストアドベンチャーが指定管理を取られた。

「森林体験交流センター」は元々農林振興の施設であるが、宿泊もできるので観光協会が指定管理を取られた。市内での宿泊施設が不十分であることを解消しつつ、観光の面でも活用を図っていき、宿泊もセットにした形でどういうサービスができるのか期待しているところである。ただ、現状の施設では観光の施設ではなく、設置条例の性格からも農林振興の位置づけである。

現在所管の農林課で、観光の切り口も加え4施設の利活用策を検討している

ところである。この見直しを受けて今後方向性が決まることになる。年度始めに「森林体験交流センター」が休館していた件であるが、料理や宿泊面でマンパワーが不足したため、2か月間提供できていなかった。閉館していた訳ではなく、観光協会では役員の方や事務局長が不足するマンパワーを補いに行かれ、6月から正常に戻った。詳細は観光協会から補足していただきたい。

続いて予算面であるが、施設の経常的な経費は栗東ステークスなど定型的なイベントや行事、また市長の政策的な経費を除いて、観光案内所の運営経費で約500万円、令和3年、4年とも変更はない。観光協会への事業補助金は、令和3、4年ほぼ同額の1,560万円である。主として人件費補助と事業補助となり、観光振興ビジョンに沿って、市の方向性と一致した事業の補助となり、協会の自主財源なども加味する中で100%補助ではない。

委員： 観光がどの部署を所管しているからでなく、「道の駅」という名だから農林振興の施設ではなく、人が集まる場所観光地として観光振興ビジョンを策定したのではないだろうか。そこも含めて情報提供や開示をしないと、次のビジョンを考えたり、今までの取り組みの検証ができないのでは、資料不足となると思う。

指定管理も4月から運用であれば準備して対応しなくては言い訳に聞こえる。「森林体験交流センター」が観光の施設ではないといっても、2か月間休止したことは反省し、事実も報告いただいた上で当会議としても検証が必要だと思う。予算関係であるが、主催と共催で明確な線引きはあるのか。協会の事業としてどこまで使っておられるのか。市として、チラシにどこまで介入しているのか、ある程度観光協会に任せているのか。

商工会であれば、コロナ対策で企業に広告費として支給する等、次に事業所へ支給するなどの計画を市と一元化して展開することもしている。栗東の観光を担う事業者は観光協会が指導する財源をある程度任せても良いのかなと思う。広告費として自由度のある補助金があっても良いかと。

事務局： 商工観光労政課としては、観光協会や商工会へ補助金という形で支出があるが、自己資金で計画された事業があっても、その不足分を市に求められて、その内容が市の目指すべき方向と合致していれば当然補助をしていくような意思決定の流れである。観光協会の様々な事業の個別の中身まで査定ができていない訳ではなく、参加費が徴収されているイベント等もある。予算としては市の目指す方向と合う事業の不足分を補助金として出している。これは、市

が補助金を出しているすべての団体についての考え方である。

委員：「森林体験交流センター」であるが、ゲートボールをしている場所にオートキャンプ場になる話を聞いたが、観光協会が管理されるのか。面白い計画と従業員が言っており、そうなれば、「森林体験交流センター」で風呂に入れたら、周辺施設と連携し企画すると良いのでは。

指定管理者がその施設だけを思って運営するよりも、金勝地域の資源の関連性をもって運用し、利用者目線で連携させて企画すれば活性化するのは。

事務局：観光振興ビジョンに基づく様々なマーケティング施策は、観光協会が事業を展開いただいている。市と観光協会の役割を考えたときに今委員から指摘のあったところは、市でしっかり考えて対応しないといけない。

また、山の施設の話であるが、所管と申したので縦割りの悪い所であるが、観光に来られた方、利用いただく方、観光振興ビジョンを考えていただく方からすれば、どこが所管していても関係のない話である。

観光地については、すべて商工観光労政課でとなるが、市の各部署にまたがる課題は、観光という切り口で当課が調整し上手く活用できるようにしていき、観光振興ビジョンで市が切り盛りしていくことと考えている。観光協会が動きやすいように取り組んでいくつもりである。

会長：議事を整理する。今回の議案を整理するために事務局と打ち合わせを行ったが、本来なら1回目の会議を6月に行い、その時に議論することを今やっている。

次回の会議で「案件1」に戻るが、「資料1」のスケジュールの次回会議で事業の進捗状況については良いが、加えて市としての観光施策の実施状況、観光に係る予算の執行状況、来年度の観光予算の考え方について事務局から報告いただくこととして挙げるのはいかがか。

「案件1」は、「資料1」に次回議題の件を追加修正して了承する事にしたい。

「案件2」は、「資料2」に記載のところであるが、先ほどの議論と観光協会からの現状報告踏まえて、委員の所管を越えて例えば金勝地区の観光活用策を検討すべきだと意見があったが、「資料2」に関連して何かあるか。

委員：次回の会議で良いので、進捗状況の評価を出せるものは出していただき議論していきたい。それぞれの取り組み状況の報告に添付資料をつけて、例えば最後の物産展等による情報は可能なら数字も明らかにしてほしい。

事務局： 9月に関西空港のりんくうタウンの広場で特産品の相互協定をしている泉佐野市(栗東観光案内所で泉州物の販売・関空の販売所で栗東の商品販売)の物産展に参加し、栗東いちじくをPRし完売した。

今後、湖南地域観光振興協議会という湖南圏域4市で名古屋市金山駅での物産展も計画している。昨年は当協議会では「ピエリ守山」の店舗の一角にブースを構え物産展をしたり、今年度は草津近鉄百貨店の1階の「近江路」に出店して物産展をした。

実績と今後の計画を取りまとめ次回に極力数字を入れて報告する。

会長： 数字というか、5W1Hを入れて報告いただきたい。

委員： イベントだと11月に12月に大津で栗東親善大使「東京力車」のライブに物品販売も計画している。

副会長： 近鉄百貨店の物産展では、西川貴教さんのイベントと重なり、観光協会傘下の事業者の商品がよく売れたと聞いている。

出店事業者の情報収集にも限界があり、近隣のイベントも把握したく、出店者にも情報をいただき連携を図っていきたい。

委員： 食肉の組合が彦根で鍋の販売をやっていた。人出が多く売り上げが伸びたと聞く。こうした催しの情報もいただければと思う。

会長： 近隣の情報を集約して発信するには、誰が動くのが効率的なのだろうか。

副会長： 10月末に大野神社の例大祭とハロウィンを兼ね物産店を開催したところ、3日間で5千人の人出であった。コロナ禍や地域の繋がりが少なくなり、「地域おこし」がきっかけで始まった。観光協会にはSNS、チラシ配布など情報発信いただき、多くの参加者が集まった。地域の催しのアンテナ的な役割を観光協会に担ってもらえると有り難い。

参加者は7割が市内、残りは県内市外の草津・守山、県外は大阪もあり、観光事業者は本格的に動き出して良いのではと思った。

フォレストアドベンチャーはどう感じているのか。

委員： インバウンドに期待している。

会長： それぞれがどういう企画をしているのか情報集約、共有され発信してい

く仕組みづくりが必要では。

委員： 様々なコンテンツを生かした発信・企画が大事と考えるが。本市はトレーニングセンター(以下「JRA」と表記)を生かした取り組みは、難しいものか。時々「馬と親しむ企画」の開催を知ることがある。本市としてメジャーな存在なので、観光施策に活用できないのかと。

事務局： JRA は、基本、観光施設ではないので公開はしないスタンスであるが、市スポーツ協会が「馬と親しむ日」などのイベントを開催している。

委員： イベントされるのなら広く発信いただきたい。観光入込客調査だけでは本当の観光の姿は見てこないと思う。何らかの有効活用できないのかなと。実施状況であるが、資料からは数値、具体的なものが見えづらい。

会長： 観光振興ビジョンを策定した時に JRA の話もあった。具体的な執行は民間に委ねることにしたのが最大の特徴である。民間レベルで「JRA」の存在を生かして使っていけば良いのだが。民間レベルでいうと、「JRA」は使にくいのが実態だと思う。ブランディングとして馬の存在は大きいので将来期待したい。

委員： 新市長の考えに馬を活用していきたいと所信表明で触れられていた。

副会長： 部長に伺いたい。新聞にも「ホースパーク構想」で掲載されていたが、いつからオープンになるのか進捗状況は。

部長： 本構想は私が所管している。国際情報高校の近隣に「健康運動公園」があり、その場所に整備を考えている。

「JRA」は競走馬で観光の拠点にはできない状況の中、競走引退馬を活用していきたい意向があった。「馬のまち栗東」として本市で馬を活用したいが、気軽に馬を観たり触れたりする場所はない。引退馬が「JRA」でも問題になっており、この活用を市の公園に位置づけ、そこに行けば馬に触れ、乗れ、育てられる等あらゆる面で活用できるのではないかと。

馬事振興として「JRA」ではできないが、公園の整備費 24 億円以上のうち、引退馬を活用して触れ、育てられるエリアを造ることにより「JRA」から支援いただけることを前市長と我々でやってきた。新市長は、「ブラッシュアップして観光だけでなく、交流の拠点にもしていきたい。例えば、修学

旅行生を受け入れて、馬の世話をする、信楽の陶芸体験とセットにして広げよう」というお考えもある。

今後、議会、地元住民、県、周辺市町など新たな構想を見せていくが、子供たちが遊べる場所、市民が憩える場所、集える店等を造っていきたい。いろいろなテーマだが、主として引退馬のリトレーニング、馬の優しさに触れるなど、この公園の中で実現していく構想は出来上がってきている。

副会長： 6～8年後と聞いたが、目途はどうか。

部長： 来年度に実施計画に入り、順調ならば令和6年に造成、5年後の令和11年と考えている。

馬事振興の意味で、先に馬の部分をオープンにしていく可能性がある。「JRA」に行かないと見られないのではなく、その場所に行けば馬事振興の場面が見られる施設を造っていきたい。

副会長： 家族が馬術をしていて馬を見に行くことがあるが、穏やかで一般の方にも触れて乗ってもらえたらと思う。

会長： その他ご意見はあるか。次回には、もう少し議論していきたいので、事務局は準備いただきたい。

事務局： 本日いただいたご意見、ご指摘の点は次回の会議で示させていただく。

5. 閉会

田中副会長 あいさつ